

本活動レポートは平成 25 年度に作成したものであり、
登録者の所属及び内容は作成時のものです。

人材登録事業の活用事例

【鳥獣保護管理捕獲コーディネーター】

■人材登録事業利用者

神奈川県自然環境保全センター

■登録者（鳥獣保護管理捕獲コーディネーター）

早川 五男（特定非営利活動法人 若葉）

■登録者への依頼事項（概要）

当県発注事業「平成 25 年度ニホンシカ捕獲困難地小規模捕獲委託事業」の受託（捕獲の実施及び技術指導）

（利用者からの報告）

■利用申請に至った背景

シカが高密度で生息しているにも関わらず、急峻な地形等の条件から、効果的に捕獲圧をかけることが出来ない地域があり、丹沢山地のシカ管理を進めていく上での最大の課題の一つとなっていた。そのため、当該地域での捕獲推進へ向けて、捕獲の専門家による技術指導を必要としていた。

■登録者との事前調整

仕様書及び実施要領にて依頼内容を確認。また、当該捕獲地において発注者（当県）が抱えている課題、適正な捕獲の手法、従事する捕獲者の技量、条件、実施体制、安全管理等について詳細な確認を行った。

■本事業の活用による成果（利用者の感想）

アプローチが遠く、地形が極めて急峻で、山が奥深いため捕獲困難地となっている地域において、本登録者と県指定のワイルドライフレンジャーによるシカの管理捕獲を実施し、2日間で9頭のシカを捕獲することができた。

条件の極めて厳しい地域で管理捕獲を行うにあたり、これまでの実施状況をもとに、専門的見地から貴重な助言をいただいたうえで、豊富な経験と高い技術により丁寧に下見を行い、綿密な捕獲計画を立てた上で捕獲を実施していただいた。捕獲実績の面でも、今後の取組に向けた示唆という面でも、大きな成果が得られた。山岳地での捕獲活動における安全性や効率性の確保という面でも、大変貴重な事例を得ることが出来た。



（登録者からの報告）

■依頼を受けて実施した内容

丹沢山岳地のおよそ 1,000m地点におけるシカの捕獲の実施と技術指導。危険個所を確認の上、降雪等の山の状況、シカの足跡の確認から現時点での生息状況や動向を確認し、捕獲場所を設定した。1名が尾根伝いに上りながらシカに重圧をかけ、その後方に待機した2名が捕獲する「追い猟」を実施した。

■報告等

奥深い山岳地帯での捕獲であるため、何よりも安全の確保が重要であった。捕獲においては、その場所（山）を知り、読むことが必要不可欠だが、不慣れな場所での判断であり、長年の経験を元に特に慎重を期したことで、安全な捕獲作業が可能となった。

また、捕獲個体との距離が 150～300mに及び中での駆け引きとなるため、高度な射撃技術が必要であることを再確認した。



捕獲現場（急峻な地形で一般狩猟者も立ち入らない）

